

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名

新潟大学

学部・研究科等名

保健学研究科

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 教育の実施体制

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

顕著な変化のあった観点名 基本的組織の編成

大学院担当教員のうち博士号取得者数は、平成 19 年度に 1 名、平成 20 年度に 2 名が増加し、博士前期課程大学院担当教員数（合、合、科目担当教員数）は、平成 19 年度に 1 名、平成 20 年度に 4 名、平成 21 年度に 3 名が増加した。また、平成 20 年度から、保健学研究科の定年退職教員を教育支援員として配置し、長年の教育経験を生かし、教員への教育面の助言や大学院学生への教育支援を行っている。以上より、大学院教育が学生の個別のニーズにより対応しやすくなっており、充実度が高まっている。また、多様な専門性を有する博士前期課程の授業担当資格を有する教員数が増加したことにより、博士前期課程における教育内容の広がりがもたらされ、学際的領域の教育も高度化した。

なお、平成 21 年度に博士後期課程の学年進行が滞りなく終了し、平成 22 年 3 月に 5 名が博士後期課程を修了した。

顕著な変化のあった観点名 教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制

平成 18 年度から大学院企画委員会が FD 活動を企画・実施している。第 1 回（平成 18 年度実施）、第 2 回（平成 19 年度実施）は、主に教育内容の充実と教育能力の向上を図る目的で、研究科内の教員による、コースワーク、リサーチワークの充実をめざしたシンポジウムを実施した。第 3 回（平成 20 年度実施）からは、本研究科における教育内容・方法の改善に加え、GP 実施計画立案をより円滑に行うための情報収集を目的に、学外講師を招聘し、学外の優れた教育改善の取組や大学院 GP の計画立案・実施についても紹介してもらい、当研究科の GP 実施計画作成に貴重な参考となった。

FD 活動を一層充実させ、その機動性を高めるため、平成 21 年度に保健学研究科・保健学科 FD 委員会を設置し、従来大学院企画委員会が担ってきた FD の企画・実施を本委員会が担当することにした。保健学研究科・保健学科 FD 委員会の企画により、平成 21 年度は保健学研究科 FD を 2 回実施した。これらの結果として、新潟大学医歯学総合病院看護部で企画されたプログラム「'気づく'を育て伸ばす臨床キャリア開発」は、平成 21 年度に文部科学省「看護職キャリアシステム構築プラン」に採択された。さらに、この GP と連携して、新潟大学保健学研究科プログラム「臨床力と研究力を融合できる大学院教育（臨床力と研究力のダブルストランドで織りなす高度専門医療職教育）」が平成 22 年度から実施される新潟大学 GP に採択された。また、平成 21 年度から、FD 委員会での度重なる討議の結果、研究科における講義、実習の資料を一元的に管理し、教員の間でそれらの資料を共有することによって、教育内容・方法の改善を促すための方法を構築している。平成 22 年度から「教育活動支援室」の専用部屋を設けることになっている。

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名

新潟大学

学部・研究科等名

保健学研究科

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 教育内容

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

顕著な変化のあった観点名 教育課程の編成

保健学研究科においては、平成 20 年度に慢性疾患看護分野の専門看護師（CNS）コースが認可された。この慢性疾患看護の CNS コースは、専門看護師教育課程の教育内容および保健学研究科の設置理念に基づき、日本看護系大学協議会が定める基準に沿って編成されている。「慢性疾患看護」に求められる教育内容は、慢性病の行動理解、患者の療養に必要な制度や体制、慢性病者のアセスメント、治療環境整備、慢性病者への支援技術に関する科目の 5 つの柱で構成されており、その教育方法は講義・演習および実習によるものである（資料）。このような CNS コースの設置によって、医療領域における深い専門性と実践能力を有する専門看護師教育において貢献している。なお、慢性疾患看護 CNS コース在籍者数は、平成 20 年度 3 名、平成 21 年度 3 名である。

資料 慢性疾患看護 CNS に求められる教育内容と本研究科で開講している科目との対応表

「慢性疾患看護 CNS」に求められる教育内容	本研究科で開講している科目
慢性病の行動理解に関する科目	成人看護特論（2 単位）
患者の療法に必要な制度や体制に関する科目	成人看護特論（2 単位）
慢性病者のアセスメントに関する科目	成人看護特論（2 単位）
治療環境整備に関する科目	成人看護特論（2 単位）
慢性病者への支援技術に関する科目	成人看護演習，（各 2 単位）
	成人看護実習，（各 2 単位）
	高度実践実習（2 単位）

顕著な変化のあった観点名 学生や社会からの要請への対応

医療現場の高度化が進み、より専門的な知識と問題解決能力を有する看護師が必要とされている。それに対応するため、保健学研究科と連携して新潟大学医歯学総合病院看護部から申請され文部科学省「看護職キャリアシステム構築プラン」に採択された「気づく」を育て伸ばす臨床キャリア開発において大学院学生のための「実践看護学実習」および病院職員の再教育のための科目等履修生制度を構築した。また、学部から直接大学院へ進学する学生から、「臨床キャリアの空白期間をなくすように」との要請に応えるために、医療機関や企業などの現場から課題を探求し、研究手法を学ぶ研究力と臨床力を結びつける「臨床従事コース」を構築した。この対応によって、大学院学生が臨床キャリア形成を継続的に行うことができるようになった。更に、連携医療機関の部署教育指導者育成の要請に応え、保健学研究科で開設している「看護教育」の科目を、平成 21 年度に病院看護職員 2 名が履修した。